

第2回宗像市幼児教育審議会議事録（要点筆記）

日 時	令和7年2月10日(月) 16時00分～17時00分				会 場	市役所 103 会議室		
委 員	船越 美穂	○	中山 健	○	木部 里美	○	北岡 かや子	○
	鐘井 秀子	○	高橋 茂	○	中尾 麻貴子	○	奥村 美香	○
	木村 友美	○	後藤 未奈子	○	大和 寿美	○		
事務局	(子ども子育て部) 早川部長、(子ども支援課) 姫野係長、(子ども家庭センター) 本田主幹、大森係長、(子ども育成課) 許斐課長、吉田係長、上村主幹、三吉							

1 あいさつ

子ども子育て部長より開会のあいさつ

2 報告

令和6年度の幼児教育事業について報告

事務局より【資料1】に基づいて説明

○保育所・幼稚園・認定こども園による小学校見学支援事業について

- ・学校には徒歩で訪問に行っているが、今度バスを利用したい。
- ・配慮の必要な子は学校の日以外に保護者と訪問に行っている。
- ・毎年利用していて、友達と一緒に小学校に見学に行けることが有難い。
- ・1日に2、3校訪問に行ったり、2日間に分けたり、車中から校舎を見学するときもあった。
- ・地域の方との昔遊びを見学することができ、入学への期待が膨らんだ。
- ・訪問時期は入学前がよいが、感染症が流行る時期でもあるので注意しながら利用したい。
- ・支援事業のことを知らなかったのが、今度バスを利用して訪問に行きたい。
- ・入学説明会の交流の場では、親から離れることができなかったのが、入学前に友達と学校に見学に行くことは、よい取り組みだと思う。

3 協議

令和7年度幼児教育事業計画(案)について協議

事務局より【資料2】に基づいて説明

○アプローチカリキュラムについて

(事務局)

- ・すでに各園で取り組んでいただいているが、さらに見える化することで連携・接続の強化に繋がる。

- ・「アプローチカリキュラムの作成の仕方がわからない」と答えた先生は、全員研修会を受けたいという回答だった。
- ・小学校に入学するにあたり、小1ギャップを埋めるため、スムーズに小学校に馴染み、楽しく学べるよう取り組んでいるところである。
- ・10の姿を伸ばしていくために、具体的にどのようなことを大切にすればよいか見える化することで、さらに円滑な接続に繋がる。
- ・人的交流を大切にしているが、クラスや担任が変わってもカリキュラムとしてつないでいくことも大切。
- ・幼児期がどのようにつながっているか、誰が見ても見通しがもてるようなカリキュラムが作成できるとよい。
- ・自分の思いを言葉で伝えられるようになってほしい。日々の保育の中で、聞いてもらえる場、共感してもらえる場などを意識的に設けている。
- ・やりたくない子に対して、なぜやりたくないと思ったか聞いてみる。その子の気持ちを子どもたちと考える。困っていることや、嫌だと思えるように言えるようになるよう心掛けている。そのようなことも、カリキュラムに見える化していけたらよい。
- ・発達段階に即した保育が大事。3歳児は自分が中心である。4歳児は友達を意識する。5歳児は集団を意識する。
- ・3つの大切にしていること。
 - ◎あいさつのたね(人とのつながりが大事)
 - ◎なかよしのたね(友達と仲良くする。自分も友だちも大事)
 - ◎がんばりのたね(挑戦する力をもってがんばっていく)
- ・1日の終わりに、その日の体験を話せる場、聞ける場をつくっている。年長児になると、先生がいなくても子ども同士で言葉のやりとりができてきている。言葉のやりとりをしながら、相手を気遣うことが生まれてくる。
- ・友達との日頃の関わりの中から学んでいくことがある。
- ・就学前になると、係活動や掃除を通して、子どもたちが意欲的にやり始める姿が見られるので、保育者は役割に責任を持てるよう関わっている。指導するのではなく、やりたい気持ちを大切にしながらつないでいくのが保育者の役割である。
- ・保育課程とアプローチカリキュラムをどうつないでいくか。すでにあるものを大事にしながらつないでいく。
- ・幼少期を安心して過ごすことが大切である。安心感があると、人の前で話すことができ、自分は自分でいいと思えるようになる。
- ・安心感をベースに、友達や先生との関わり方など可視化しながらカリキュラムを作っていけるとよい。
- ・小学校では、入学説明会のときに、5年生と年長児との交流会を行った。保護者にも安心してもらうよう学校側は伝えている。保護者と報・連・相(ほうれんそう)ができる関係がよい。
- ・困っているときに、自分の気持ちが伝えられるとよい。
- ・幼児期の姿を意識しながら、学校側も教育課程を見直していく必要がある。
- ・アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムをどうつなげていくかが今後の課題である。
- ・研修会では園と小学校の情報共有の場や、幼児教育研究協議会では保幼小連携の課題などについての協議の場を設けている。
- ・宗像市でフォーマットのようなものを作成してもらえると参考になってよい。

- ・小1ギャップを感じ、不安になっている保護者がいる。細かいイメージがわからない保護者が多い。色々なパターンを保護者に伝えている。
- ・園に通っているときは、保護者は情報もよく知ることができ安心していましたが、小学校に入学すると情報がわからず不安を感じる保護者もいる。入学後の学校の生活のイメージがなかなかできない。下校や給食の時間などわかると保護者も安心である。
- ・アプローチカリキュラムの中に、4月のイメージがわかるとよい。
- ・アプローチカリキュラムは大切で必要なことだと思うが懸念もある。
- ・自由すぎて入学後に集団行動がとれないのも困るし、発達水準以上を求めるのも困る。
- ・10の姿を具体的に作れば作るほど排除の理論が生まれ、インクルーシブ教育でなくなる。注意しながら10の姿を考えないと誤解を招く可能性がある。
- ・あいさつのたね、なかよしのたね、がんばりのたねのような表現のように、どのようにも読み取れるような形は、多様性を含んでいるのでよい。
- ・保幼小連携は、随分進んできたように思う。入学前の学校訪問など増えてきたし、充実してきたと思う。
- ・学校が工夫している地域もあり、5年生の総合の時間に保育園に行き、園児と一緒に遊ぶ学校もある。

○その他

- ・配慮が必要なお子さんの入学前の引継ぎは、個別に丁寧にされ、担任と保護者は安心されていた。
- ・各園の教育方針の違いに不安を感じている保護者には、宗像市はベースとなる基本方針は同じだということ伝えていく。
- ・「楽しい小学校生活に向けて」のリーフレットの10の姿を見て、うちの子はできないと不安になる保護者がいたので、10の姿はめやすであることを伝えると安心された。
- ・保護者が、園や学校の先生が連携・接続のためにされていることを知ると安心されると思う。
- ・学童に預けたとき、ボランティアの方の対応が不十分だったという声があったので、学童もきちんと連携が取れ、充実した環境で子どもが過ごせるとよい。

(事務局)

- ・学童を利用する児童について、入学前に、市、指定管理者、学校の3者連携会議を開催している。
- ・学童では、気になることがあった場合においても、保護者と連絡を取り合いながら随時対応し、必要に応じ、支援員を追加して体制を整えている。また、支援員の特別支援の研修会も開催している。

4 その他

(事務局)

- ・新こども計画(計画期間:令和7年度～令和11年度)を策定中

あいさつ

会長より閉会のあいさつ